



2025年9月19日
東日本旅客鉄道株式会社
横浜支社

横浜線 E233 系 一部区間における自動列車運転装置 (ATO) 使用開始について

- JR 東日本では、鉄道のサステナブルな成長を目指し、安全やサービスのほか、保守・運行・環境など様々な構造改革・技術開発に力を入れています。
- その一環として、京浜東北・根岸線の東神奈川～大船駅間を走行する横浜線で使用している E233 系に、横浜支社管内では初めてとなる自動列車運転装置(以下、ATO)を導入することとなりました。
- 今回導入する ATO は、乗務員が出発ボタンを押下することで、自動的に加速・減速・定位置停止制御を行います。システムで加減速を調整するため、安定性の向上に加え、省エネかつ、一定の乗り心地となります。
- なお、ATO の本使用開始に向け、9 月下旬から一部の営業列車では、ATO を使用した走行訓練を開始します。

1. 使用開始時期

2025 年 11 月 22 日(土) 初電より順次使用開始

2. 導入区間と導入車両

【区間】京浜東北・根岸線 東神奈川～大船駅間

※横浜線からの直通運転列車のみ

【車両】横浜線 E233 系(8 両編成)



横浜線 E233 系



3. ATO による運転について

①発車時

地上設備から「出発可能」の信号が送られます。これを受けて乗務員の出発ボタン操作により動き出します。

②走行時

出発後、ATO は自動で勾配や曲線、制限速度を考慮して最適な加減速を行います。

③停車時

駅の停止位置に向けて自動で減速、正確な停止位置を把握し、前後数十 cm 以内の精度で停車します。(停車後、乗務員の操作によりドアを開扉、お客さまの乗降後、乗務員がドアを閉扉します。)

【参考】

今回導入する ATO について

今回、2つのシステムを組み合わせることで、制限速度を超えずに自動で駅間を走行し、駅の定位置に停止させる運転方法へ変更します。以下、各システムの概要を紹介します。

■自動列車制御装置(ATC:Automatic Train Control)

列車が制限速度を自動的に守るためのシステムです。車両に搭載している装置が、線路に流れる信号情報から制限速度を認識し、実際の速度を超えないようにしています。

万が一、制限速度を超えた場合、自動的にブレーキが動作する仕組みとなっています。

■自動列車運転装置(ATO:Automatic Train Operation)

乗務員が運転台にある出発ボタンを操作することにより、列車が起動し、自動で次の駅まで加速や惰行、減速を行い、次の駅の定位置に停止をさせるシステムです。この間、基本的には乗務員による加減速の調整はありません。



出発ボタン

※画像・イラストはイメージです。